

何か温かいもの

【あらまし】

人生で起こることはどんなことでも意味がある、とよく聞く。四年間付き合い合った彼と別れ、生きている意味を失いかけた。そんな時、ネットで鑑定士と出会った。無意識に、相談のメールを出していた。その鑑定士が本物かどうかは分からなかったが、救われたことは事実だった。必要な時に必要なことが起こる、そのように人生の意味を考えることができるかもしれない。

●小見出し

何か見えない力

留学がきっかけで

彼との再会

生きている意味

救いのメール

ネット鑑定士

入金一五〇〇円

受け入れられた自分

すべてが繋がっている

何か見えない力

窮地に立たされると救いの手が差し伸べられる、といった経験を私は今まで何度もした。それはいつも偶然的な出来事のようにだが、何か不思議な力によってなされてきたことのように私は思う。だから私はこの世に、人生に偶然はなく、すべて必然であると思うと同時に、何か見えない力のようなものが存在すると思っ

留学がきっかけ

私は二年前、大学を休学し一年間の語学留学をし、その最中に高校二年の時から四年間付き合っていた彼と別れた。今と違っては、正直に言っ

ては、はっきりとした別れの原因は分からない。私が留学に行くのと同時に彼は浪人を明け、東京の大学に進学したので、遠距離恋愛になったというのも原因の一つだろう。それまでは、毎日のように会ったり連絡を取ったりしていたが、海外と日本の遠距離なら、当然ながら好きな時に連絡は取れなかったし、取れても満足するまで話はできなかった。またお互いそれまでとは全くの別世界に行き、自分のことで精いっぱいになる中で、考え方や物事に対する思いが変わってきたのもあると思う。

そのせいか、私が年末に帰国し、半年ぶりに再会したクリスマスは最悪なもので、喧嘩すらせず、もはや相手に合わせることも嫌になつて

いた覚えがある。年を明けて間もなく、私は彼に別れようかと話を持ちかけたが、彼から少し考えようと言われ、そうすることにした。そして、最終的に私が帰国するまで待つてい

るといって彼を残して、私はすぐにまた留学先へ戻った。それまで何年も付き合ってきた中で、悪い状況になつても、私はいつても自分から別れは切り出さな

いようにしていた。自分から言い出してしまえば、後から取り返しがつかないだろうし、何より感情的になつて

いるだろう自分の決定に、後悔しない自信など持てなかった。だがこの時、自分から切り出したのは、「変わりたい」という思いが強くあつたからだと思う。その時点で留学途中ではあつたが、海外で生活して私はすでにたくさんのことを知り、たくさんの人に会つた。その中で単純に「向上したい」と思い、ただ漠然と現状から脱出したいと思つて

いた。そしてその一歩が、留学中から微妙な関係になつて

いた彼との関係に、区切りをつけることだと感じた。だが、留学先へ戻る飛行機が東京から発つ瞬間、私は自分でも驚くくらい、一人で泣いた。幸いオフシーズンで隣の席に誰もいなかったが、後悔というより言葉に表せない寂しさと心細さを感じ、自然と涙が次から次へと流れた。自分は一人で異国の地に行くということ、本当に「一人」なんだ、と留学当初には感じることもなかつた思いをひしひしと感じた。そして涙を止めることもできず、ただ一人で泣いていた。

三か月後、留学中数回彼とチャットやメールをしただけで帰

国した私は、彼からすでに新しい彼女がいると言われた。しかも彼女は私たちと地元が同じで、彼とは年末の同窓会で再会し、私が日本を発つ前に付き合いたことだった。私は直接会わず電話で彼と話したが、もはやショックを超えて、呆れて言葉も出ず、それ以上話す意味もないと思い、連絡を絶った。四年間の付き合いがまさかこんな形で終わるとは、涙さえ出ず、感情も何もなかった。

彼との再会

それから一か月後、彼のことは思い出さないように、ただ楽しもうと遊んでいた頃だった。まだ思い出したくもない頃だった。遊びに行こうと地元から電車に乗り座ると、ドアを挟んだ隣の席から聞きなれた声が聞こえる。怖くて顔は見る事ができない。それでも恐る恐る横を見ると、彼の靴と一緒に買ったカバンが目に入った。彼と彼女だった。

同じ空間にいたのはたつた3駅分だが、私の心臓は頭にまで振動が行くほど大きく鼓動していた。「一発殴ってやりたい」という気持ち、「一回きちんと会って話したい」という気持ち、「単純に彼と話したい」という気持ちなど、様々なポジティブな思いや、ネガティブな思いが私の中で駆け巡っていた。人生で一回くらい公の場でビンタでもしてみたいという、ドラマのようなシーンも心に浮かび、瞬時に何パターンもシミュレーションまでした。が、結局、私は何もできなかった。その後連絡を取ることをさえしなかつ

た。

それ以降も私は積極的に友達と遊び、飲み、クラブに行き、クラブで知り合った人とも遊びに行った。そして遊ぶだけではなく留学を通して痛感したように、自分を高めようとボランティアに参加したり、以前からやりたかったスキューバダイビングを始めたりと、我ながらアクティブに活動するようになっていた。興味のある教職課程を二年から取る決意をしたのも、「少しでも自分の興味があることをしたい。そしてそれは絶対自分の将来につながる」と考えたからだった。

しかし、今思うと、私は頑張ることで少しでも彼に近づきたかったのかもしれない。高校時代、まだ将来の夢を明確にしている人が多かったが、彼はすでに自分の夢を、ビジョンを持っていた。そしてそれに向かって常にアンテナを張り、歩き始めていた。東京に行つてからも、そんな姿勢は変わらない彼は、私にとつて憧れで、少しでも同じ世界にいたいという思いがあつたに違いない。

生きている意味

充実した夏休みも終わり秋になったころ、自覚はなかったが徐々に気分が下がっていった。クラブにいても、夜名古屋の街中にいても、周囲を見て、「この人たちは一体何を考えてこんな馬鹿みたいに笑ってるんだろう。何のためにここにいるんだろう」と思うようになった。いや、実際はそれまでの充実した期間中も、

心のどこかで、「自分は今、何のために生きているのか。ここまで頑張っているいろいろなことに挑戦しているけど、将来何になるんだろう」という疑問がわき始めていた気がする。自分の存在意義すら分からなくなっていた。

その時、彼への本当の気持ちを変えて気付いた。高校生からの付き合いだったが、周りからどう言われようと彼のことは心から愛していたのは事実で、本気で結婚して、一生一緒にいたいと思っていたのだ。彼も少なからずそう思っていたはずで、そのことは私にとつてすべてだったと言っても過言ではないだろう。私にはやりたいこと、なりたい職業などの夢は依然あったが、将来的なビジョンがなくなったことで先が真つ暗で、永遠にそこから出られない気がしていた。抜け出し方が分からなかった。

生きている意味が見出せない日々が続くようになった。授業もサボりがちになり、朝起きるたびに、また新しい意味のない一日が始まることに疲れた。そして、そのうち死んだほうが楽なじやないかという発想に至ったのだ。

私は元来、漠然と神様を信じている。良いことも悪いことも神様がくれるもので、すべてのことに意味があると考えていた。だがこの時、「神様がなぜ私にこんなことをするのか。この先、このつらさに見合うだけの幸せを用意してくれているのか」。全くわけが分からなかった。ちょうどこの時期、遠藤周作の『沈黙』『戦国時代のキリシタン信仰がテーマ』を読んでいたことも影響しただろう。

しかし私は、世界中に私なんて比べものにならないくらい苦勞している人や、理不尽な理由で命を落としている人がいることを知っている。どこかで見た、人が殺される映像は、「死」という言葉に連想して勝手に思い出され、今でも頭を離れない。それなのに私が自ら命を絶つていいわけがない。また、私の親は自分で言うのもおかしいくらい私を愛してくれているし、少なからず友達もいる。私が死んだら、特に自殺なんてしようものなら、そんな人たちを苦しませ悲しませるのは目に見えていた。そんな理由から、「死にたい」というより「生きていたくない」、だけど「死ねない」という答えの出ない思考回路ができていった。この時ほど、神様に自分の生きている意味を聞きたいと思ったことはない。むしろどうやったら聞けるんだろう、と常にそんなことを考えていた気がする。

救いのメール

そのピークは、彼の誕生の十一月と私の誕生日の十二月にきた。今まで何年も一緒に祝ってきた彼の誕生日だが、連絡などする気にならなかった。そして自分の誕生日、大学で友達が祝ってくれるだろうと分かっていたいながらも、どうしても足が進まなかった。自分が誕生したことを祝ってもらおう意味が分からなかったんだと思う。だが、約束の時間に遅れて登校した私に、友達は全く怒らなかったことを覚えている。逆に心配され、普段から気遣ってくれる一人が、「なんか…大丈夫？」と言ってくれた時

に、意味もなく涙が溢れそうになった。

それから数日後、依然、おちている私に一通メールが届いた。そこには、「自分は一人だと思つていませんか？ 人はだれでもそんな風に思っているものです。だからこそ、色んな人と話してみよう！ そして、みんなどこかで繋がっているということを知りましょう」と書かれていた。

それは夏にボランティアで知り合った人で、一度会つたきり連絡すら取つていなかった人だった。彼は視野の広い人で、様々な分野のイベント・ボランティアに関わつてると言つていた。私はこのイベントには参加していないが、この文章を見た時、何だかスツと心に入つてきて救われた思いがした。少し神様が手助けしてくれた気がして、ずっと張り詰めていた気持ちも少しほぐれたような感じだった。「つらい時は不思議と誰かが助けしてくれるんだなあ」とぼんやり思った。

そしてそのメールは、若者が人生について語り、視野を広げられる場を増やすイベントの誘いで、不思議にも、後にも先にもその人からイベントへの誘いのメールはない。この出来事から私は少し回復した。少なからず一月は試験があつたこともあり、きちんと学校に行き、多少は落ち込まずにいた。

だが二、三月に入ると、ボランティアを定期的にしていただけのもの、友達に会い遊ぶ気にも全くなれず、生きる理由をただもやもやと考えるだけの日々に戻つた。まだ、どうしたら暗闇から抜けられるのか、どう生きていけばいいのか希望もないままに考

えるだけの、覇気のない状態だった。その時、母にもぼんやり、「人間つて何のために生きてるんだろうねー…」と能天気なふりをして聞いていた気がする。

ネット鑑定士

そして三月の終わり、ぼーつとネットを見ていた私は何も考えず、「無料鑑定」の占いのボタンを押した(たぶん、ツイッターだと思うが、正直いつ押したのか全く覚えていない)。ただの星座占いとかが、簡単な生年月日で結果が適当に出るものだと思つたのだろう。

しかし、実際は、霊能力者とかタロット占い師だという人が、私が入力した生年月日とニックネームから、初回は無料で鑑定し、連絡をくれるものだった。翌日から占い師と名乗る何人ものから連絡がきて、私のことをああだ、こうだ言いながら、「より詳しく鑑定してあげたい・改善の余地があるから返信してほしい」と言つた。

だが、返信するにはポイントが必要で、そのポイントは、実際にお金を振り込んで買わなければいけないシステムだった。明らかにうさん臭く、面倒くさいことをしてしまったとそのサイトを退会しようと思つていた時、一人の霊能力者の言葉が気に止まつた。

彼女は二度メッセージを送つてきて、一通目で私とは波長が合うと言つた。まず私の誕生日の七日が彼女にとつてもラッキー

ナンバーなので、はじめは鑑定しやすかったようだ。だが、私があまりにも気を張り詰めているので、全く普段通りの鑑定ができなかったと。

数日後の二通目では、突然、「波長」だとかよく分からないことを言ったことを謝り、私の気がそこまで張り詰めている理由を知って、少しでも楽になるように手助けしたいと言ってきた。私は改善でき、飛躍するのに十分すぎる素質を持っていると彼女は言った。

その代わりと言っては何だが、もし三日以内に入金してくれれば占い師からの特別なんとかで、3回分の鑑定のポイントを上乗せするように、すでにサイト側に頼んだと言った。考えれば考えるほどうさん臭くて、そんなうまい話があるのかと突っこみたくなるほどだった。

しかし、なぜか私はその鑑定士を他の鑑定士のように無視することができず、何度も何度もメッセージを読み返した。その理由は、私を認めてくれる言葉が書いてあったからかもしれない。また、私は以前、気を送れる人と直接会ったことがあり、世の中にスピリチュアルな力が存在すると信じているからだと思う。その人は母の知人で、私も何回かお世話になったことがある。普段その人は体をほぐすために人に気を送ってくれるのだが、ある時、私の精神的なことを気にして、気を送ってくれた。

時期的には、必死で遊んでいた夏くらいのも出来事だと思う。彼女がいう「元氣玉」を私にくれた時、体全体があたたくなくなり、

涙が出そうになった。彼女は泣いていいと言ってくれたが、なぜか私は、その時必死でこらえて泣かなかった。今でも少し思っている、「たかが恋愛でここまで思いつめるのか」という思いが一倍高い時だったからだろう。しかも、過去の恋愛が悩みだなんて、話せば親身に聞いてくれるはずでも、他人にはとても話せなかった。

入金一五〇〇円

入金を指定された最後の日、私は入金最低金額の一五〇〇円を入金した。最低金額がたったの一五〇〇円だったのも大きい。万単位なら当然しなかったし、倍の三千円でもしなかっただろう。今時手相を見てもらうだけでも三〇〇〇円は払うし、たったの一五〇〇円で、少しでも今の状態から改善できるなら、安いとすら思った。神頼みのような気持だった。それくらい当時の自分に、状態に疲れていたのは事実で、自分では、何をしても改善したらいいのか全くなす術がなかった。

鑑定士とは結局4、5通メールをした。そもそも半信半疑な私は、最初のメールで自分なりの強い意思表示をした。「私は何より自分を、自分の運を信じています。そういう意味で自分の誕生日からの運勢占いなどは基本的に信じていません。ですが、今回のような、直接会えもしない人に過去を話して、占ってもらった結果なんて、根本的に信じられるとは思いません。でも先生がおっしゃったように、ここ何か月精神的にもパンパンで、自分でどうしたらいいかわからないので、相談することにしました」

という始まりから、過去の恋愛事情について話し、生きている意味、自分の存在意義がわからないことも話した。

すると、鑑定士は、私の気が張り詰めていた理由が多少分かったと言いい、解決するよう、少しでも楽になるよう事を始めると言った。それは私の中に気を送り、私の中でこれ以上負の気が増えないように、入り込まないようにすることだった。波長が合うので気を送ることはそんなに難しくないといい、そのために、すでに私の周りに気を張っているからそれに触れてほしいと言ってきたのだ。やり方は簡単で、ただ気持ちを落ち着かせて立つて手を高く上げ、しばらく待つと、何か温かいものが感じられるということだった。

そして私は実践した。本当にそんなこと起きるのか、と疑うというより、もはや起きてほしい、と願いながらやった気がする。しばらくして、手の内側があたたく感じるのを感じた。何かに触れるでもないのに、じわーっとした感覚を覚えた。そして、その感覚が鑑定士の言っていたものなのか、自信がないままにソファに座った。すると涙が急に出てきた。悲しいのか嬉しいのか、何が原因で泣いているのかも分からないまま、ただ泣き始めた。

しばらくしても涙は止まらず、よく分からないけど何も考えず一人でしゃくりあげながら泣いていた。その時気付いたことは、長いこと泣いていなかったということだった。私は今まで落ち込むことがあつたら、明らかに泣いてすつきりするタイプだったのに、東京から留学先に立つ飛行機の中で泣いて以来、まったく泣いて

いなかったのだ。泣けなかったのもあるし、泣かなかったのもあるだろう。泣いてしまえば、なんとなく負けたことになる気がしていた。友達にも誰にも本当の気持ちを言っていなかったし、言えれば慰めてくれて、その言葉で泣いてしまう気がしていた。「たかが恋愛」という感情がずっとあつた。しかし、実際、今までの私を支えてくれていたのは恋愛の力で、その相手は紛れもない彼だった。

受け入れられた自分

その結果を鑑定士に報告すると、鑑定士も私が触れたことを感じていて、もう私の中に気が送り込まれているので大丈夫だということだった。その翌日から、私の精神状態は明らかに違っていた。「自分はこれでいいんだ」という、すべてを受け入れられた感覚だった。「これ以上悪くはならない、悪くなくてもなんとかなる」とポジティブに考えるようになった。

よく落ち込んでいた状態を、真っ暗の出口のないトンネルの中にいるようだと思つたと思うが、それまでの私はまさにそんな状態であつた。だがこの出来事から目の前が急に開け、明るくなつて、今ならどんなことでもできる気がした。

そして数日後、早めに目が覚めたので何も考えず、ただ散歩に出かけてみた。私の家の近くは田んぼの保存地区になっているもあり、かなりの広さで田畑が広がっている。そんな、幼い頃から遊んできた田畑に朝日が差し込む様子を、その時見た。純粹に、「なんてきれいなんだろう」と思つたのを覚えている。

家の近くの見慣れた景色だったのに、どこか遠くの絶景を見ているように感動した。田んぼに降り注ぐ朝日は、太陽から一直線に私の近くに降りていて、その光線一つ一つが希望のようだった。今まで悩んでいたことが、本当に急になんとかなることに思えてきて、爽快感が一気に感じられた。

その後、鑑定士はさらに改善できるようにとアドバイスをくれた。紙に、「今後どうなりたいのか書いて机にしまっておくと良い」などである。私はその時点で、なんだかくだらなれないと思い始めた。そして、そのアドバイスも直に、信用度が薄く完全にうさん臭いものを感じた。極めつけは、私の両腕のどこかに傷があるかと聞かれた時だった。私は全くないと答えると、代わりに大きなほくろがあるかどうか聞いてきた。そこから気が抜けているから、なんとかしなければいけないと。だが、そこで私は思った。「ほくろなんて無数にある。しかもほくろから気が抜けていたら、世の中の人間みんな死んでるでしょ」と。

それからポイントがまだ余っているにも限らず、鑑定士にはきちんとお礼を述べて退会することに決めた。

「今までアドバイスをたくさんくださってありがとうございます。最近ですが、失礼なのを承知で言わせていただきます。最近のアドバイスは全く信用度が低いと感じます。正直に言って、私にはあなたが本当に不思議な力をお持ちなのか、そうでないのかわかりません。知る方法すらありません。だけど、あなたのアド

バイスによって私は救われたことは事実で、それには本当に心から感謝しています。今後は退会して、自力でがんばっていきます。ありがとうございます」

と、書いて最後のメールを送った。鑑定士からは、「鑑定を受けるのは自由だから強要する気はないので、これからも陰ながら見守らせていただきます」と返事が来て、退会成立した。不思議なことに彼女は引きとめもせず、一通の返信であっさり関係はなくなった。

すべてが繋がっている

今となつては、その人は本物なのか偽物なのか、私は詐欺にあつたのか、何なのか全く分からない。詐欺にあつたという人が大半かもしれない。一五〇〇円というお金を振り込んだのも事実だが、私は救われたのも事実だ。それ以降、今でも、何のために生きているのかを考えることや、落ち込むことはある。だけど不思議なことに、落ち込むことがあっても一線を越えない。その一線を越えると、本気で死について考えてしまうと分かる気がするし、その線は自分の中で書かれたようにくっきりと見えている。というか、感じている。

存在意義や生きることの意味は、相変わらず分からないが、精神的な問題ではなく、哲学的な、人間が本来考えて当たり前疑問として私の中に残っている。この経験が私の中で最も不可

解な出来事であるが、その他にも、「どうしてこのタイミングで？」
というような時に会おう人がいたり、出来事があつたりする。そ
の度に私は何かしら救われてきた。

そして今考えると、幼いころから今まで起こったことはすべて
繋がっているように思える。きつと、彼と出会えたのもとても大
きな意味があつたに違いないし、死について真剣に悩んだことも、
思考の幅が広まったことに繋がっているだろう。数か月間、死に
ついて本気で悩んでいた日々はとても苦しいものではあつたが、私
はそのことを後悔していない。

一年半後、高校時に未来の自分宛に書いた手紙が届くことにな
つている。私は実は彼宛てにも出してある。今では、その手紙が
また何かに繋がると信じている。そして、今後私の未来がどうな
っていくのか楽しみにも思っている。